

## 防災からたどる SDGs の道

対 象： 小学4～6年生（中学生も可）  
 人 数： 5～6人グループ（6グループ程度まで）  
 教科／分野： 理科、社会  
 授業時間数： 45分間 x 2コマ（単発でも連続でも可）  
 場 所： 室内

ESD プログラムへの 想い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガールスカウトで防災をテーマにした活動を数年続けている。被災した時に役立つワザや非常用グッズなどを備えるだけでなく、自然災害がなぜ近年増えてきているのかと疑問を持ち、気候変動による影響が大きいことを子どもたちに気づいてほしい。</li> <li>・ 「防災」から、【11 住み続けられるまちづくりを】や【13 気候変動に具体的な対策を】などにつなげられ、世界規模の大きな課題に対しても自分たちの日常生活を見直すことによって解決の道が見いだされることを一緒に考えていきたい。</li> </ul>
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもたちが災害に備える工夫を知り、自分ができることを見つけられるようになる。</li> <li>・ 子どもたちが、気候変動により引き起こされる災害に関心を持ち、その理由を考えられるようになる。</li> <li>・ 子どもたちが、地球環境のよいサイクルを生み出すために自分のふだんの生活の中でできることを見つけ、実践できるようにする。</li> <li>・ 自分たちが考えた工夫や実践したいことを、家族や友だちなど他の人たちにも伝えられるようになる。</li> </ul>
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災と地球温暖化の問題を結びつける手立てを「身近な生活の中で備えること」と考えた。災害を予測し普段から備えようとする意識は、未来の地球環境の変化を予測し悪化を食い止めるために、一人一人が現在の暮らし方を見直すことに通じるものとする。</li> </ul>
持続可能な社会づくりの構成概念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様性： 気候変動による自然災害が起こる要因を多面的にとらえる</li> <li>・ 相互性： 人の暮らし、生き物の命、環境について相互的に考える</li> <li>・ 有限性： 資源の有限性や自然の循環に気づく</li> <li>・ 責任性： 地球環境について自ら考え行動するという意識を持つ。</li> <li>・ 連携性： 家族、地域の連携から、地球規模の連携・協力までの繋がりを知る</li> </ul>
重視する能力・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の地球環境から予測できる未来を想像し、希望を掲げて未来を創る作業に自ら関わろうとする・・・①批判的に考える力、②未来像を予測して計画を立てる力、③多面的、総合的に考える力</li> <li>・ グループワークにより多様な意見を受け入れ、その中から自分たちのビジョンを定め共有していく、そして他者に伝えていく・・・④コミュニケーションを行う力、⑤進んで参加する態度、⑥つながりを尊重する態度、⑦他者と協力する態度。</li> <li>・ 以上7つの他に、未来に希望を持ち自分たちが変えていけると信じる気持ち</li> </ul>

### プログラムの流れ

時間	ねらい	方法 場所	内容
15分	①【導入～やってみる】身近なモノを使って防災グッズを作ってみる	グループ 室内、	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポリ袋（ゴミ袋）を使ってレインコートを作る</li> <li>・ ポリ袋やその他の日用品を利用して災害時に使えるもの、工夫できるものを考え、出し合ってみる</li> </ul>

10分	②【気づく】自然災害とその原因を探る	グループ 室内	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな自然災害があるか、なぜそれが増えているのかについてグループで話しあう。</li> </ul>
10分	③【知る・感じる】地球の現状とこのままの未来予測	グループ 室内	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像や資料による地球温暖化の今と未来予測を見る 【例】河川の氾濫した町、ゲリラ豪雨が流れ込む地下街、台風の暴風雨による被害、土砂崩れ、竜巻、熱暑、おぼれるシロクマ、海に沈んでいく島・・・など</li> <li>「気持ちカード①」に今の自分の気持ちを記入する（オノマトペ）</li> </ul>
10分	④【考える】未来は変えられる？ 誰が変える？ 変えるためには？	グループ 室内、	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害に備えるためにできることを考えてみる。</li> <li>それらを自分にとって近い、遠い（自分ができる、国や市や団体でできる）ことで分けてみる</li> <li>次に、今すぐできること、時間がかかること（これから10年間でできること）に分けてみる</li> </ul>
45分	⑤【伝える】自分の気づきや考えを誰に伝える？どこに広げる？	グループ *作業は室内外で可。 基本的に会場付近で。	<ul style="list-style-type: none"> <li>④で考えたことを伝える&amp;広げるために「Instagram (写真)」をグループで制作（載せる写真&amp;メッセージを考えて制作する）</li> <li>Instagramのキーワードは、「そうだ！やってみよう！」（この方向性で独自の言葉にしてもよい）</li> <li>発表&amp;シェアリングタイム・・・発表者以外は「いいね」や「コメント」で評価</li> <li>発表を終えての気持ちを「気持ちカード②」に記入（オノマトペ）</li> </ul>
SDGs との関連性	<p>4. 質の高い教育をみんなに 7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに 11. 住み続けられるまちづくりを 13. 気候変動に具体的な対策を 17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p>		
学校・地域等との連携上の考慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の防災倉庫や避難所としての役割、近隣の公園の防災システムなどをわかりやすく盛り込み、学校や地域が災害時に果たす役割を知ることができるようにする。</li> <li>このプログラムへの取組みをきっかけにして地域・学校の防災活動に興味を持つようになり、自分事として関われる防災・地球温暖化防止に繋がる。</li> </ul>		
対象を発展させる可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生対象の場合は、Instagram (写真) の他に動画制作をすることも提案できる。</li> <li>プログラムへの取組みから、気持ちを作文や詩で表現、標語を作成、啓発ポスターを作成、防災・減災のアイコンとしてのオリジナルキャラ開発、データ分析から未来予測へのプログラミングなど、発展の可能性が考えられる。</li> </ul>		
その他補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化の現状や未来予測を伝える映像や資料など（プラネタリー・バウンダリー）</li> <li>「気持ちカード」①現状を知って、②できることを考えて、③伝え広めた後に、が記入できるようにする。</li> <li>Instagramのための装置・小道具など、いいね！シール（or カード）</li> </ul>		

プログラム作成者名（団体名）： 柴田加寿子（ガールスカウト千葉県第 63 団）